



HaRuNe小田原（地下街）テナント発表。11月オープンに向けてカウントダウン!!

8月18日に開催された建設経済常任委員会で、ついに地下街に入るテナントが発表されました。

オープンは11月1日。いよいよ、再開へ向けてカウントダウンとなります。

これまで、市は駅から直線に入って右側を小田原の地場産品などを中心とした小田原ゾーン、左側を全国的に展開（ナショナルチェーン）をしている、集客力が高い「パワーテナント」を中心とした「物販ゾーン」という説明をしてきました。

今回明らかになったテナントは次の通りです。

<小田原ゾーン>

朝どれファ〜ミ♪（農産物直売所）、きみのそば（そば処）、山安ひもの、キッチンうおくに（魚惣菜）、小田原かまぼこ本舗（小田原蒲鉾組合13社の製品を取り扱う）、中ちゃん家のお惣菜（老舗精肉店のお惣菜）、とりげん（鶏惣菜）、小田原田中屋本店（梅干し、佃煮、惣菜）、シーズンコレクション（和洋菓子、ベーカリーが交代で出店するイベントショップ）、曾我の正栄堂（和菓子）、最中工房小田原種秀（最中専門店、こだわりの最中の皮）、焼き菓子屋 CHI N RIU（洋菓子）、TAKUMI館（木製食器、木製雑貨）、菜の花ビレッジ（和洋菓子、生活雑貨、カフェ）北条楽市（北条氏に関連したグッズなど新しい小田原みやげ）、ヴィ・ド・フランス（ベーカリー・イートイン）

<物販ゾーン>

メトロマルタ（生活雑貨、コスメ、服飾雑貨）、fitfit（婦人靴）、off&on KITCHEN（キッチン雑貨）カルディーコーヒーファーム（コーヒー豆、輸入食品）、J I N S（メガネ・サングラス）

<飲食店>

La Masa（スペイン料理）、海鮮横丁うおくに（海鮮レストラン）、GENERAL FARM'S（パスタ、グロッサリー）

その他、街かど案内所ではキャリアサービスや市内周辺の案内、商店街の紹介などを行う。

イベント広場やうめまる広場では即売会やワークショップなどを開催。壁面を利用したウォールショップやギャラリーもできます。

委員会では、全国的に名が通った名前は見当たらないが、どれがナショナルチェーンなのか？駅周辺や商店街とかぶるお店は、どのように住み分けを行うのか？などの質問が出ました。特に、朝どれファ〜ミは成田の店舗では生産者が直接持ち込むのが特徴ですが、HaRuNe小田原は搬入口が1か所しかないために、成田

店で一度まとめてから搬入するということになるとのこと。小田原ゾーンの目玉は朝どれファ〜ミになりそうですが、果たしてその魅力が充分発揮できるのか？

各店舗様々に工夫を凝らしていて、それなりにお客様を呼べそうな感じはしますし、観光客に対してのアピールもできているな、と思います。

一方で、加藤市長が連発する「中心市街地の活性化の起爆剤」というところまでかどうかは正直疑問だなと思います。ラスカができて地元商店街はかなりの影響を受けました。商店街からの心配は、地下街の再開でさらにお客を駅周辺で囲い込むことにならないか、という点です。中心市街地が活性化しても周辺市街地がそれ以上に衰退してしまっただうにもなりません。地下街再開に向けて投じた23億円もの巨額な予算が無駄にならないよう、商都小田原らしい巧みな経営を期待します。

さて華々しいスタートが切れるのか。11月1日がグランドオープンです。

9月議会の日程

9月1日より小田原市議会9月定例会が始まります。

今回は、今話題の芸術文化創造センター予定地内の市道2197の廃道と、併せて新しく整備する生活道路の設置の条例。塔の峰青少年の家が老朽化のために廃止になるという条例などが審議されます。また、芸術文化創造センターに関連する陳情が5件出されています。

後半は、平成25年度の決算の審査。昨年に引き続き、全員参加型の決算です。

9月4日 本会議 議案関連質問

5日 建設経済常任委員会

8日 厚生文教常任委員会 芸術文化創造センター関連の審議と陳情審査

9日 総務常任委員会 私が所属しています。今回は議場に国旗を掲げる陳情が市民から出され、その審査もあります。注目です。

12日 本会議 議案の採決 一般質問

16日 本会議 一般質問

17日 本会議 一般質問

18日 本会議 一般質問

19日から10月2日まで決算特別委員会

混迷を深める市民ホール。用地内の市道の廃止決定！

9月12日の議会では、芸術文化創造センターの整備に伴い、用地の真ん中に横たわる現在使われている市道2197の廃止と、幅員4mということで、安全性が疑問視されるの新しく整備する予定の市道2693の設置についての採決がありました。

この問題については、市民説明会でも反対の声が多く聞かれ、また議会には市民からの陳情や要望が出されました。

私は、同じ会派の植田議員、木村信市議員とともに、市道廃止と設置に伴う補正予算の修正案を提案しました。結果として、この道路問題に反対する議員は少数でしたので、この道路は市側の示したとおりに廃止、設置されることが決まりました。

議決前に意見を述べましたので、ぜひお読みください。

議案第99号 市道路線の認定および廃止について

反対の立場で討論いたします。

今回、市道2693の認定と市道2197の廃止が同時に提案されております。

市は市道2693は、市道2197の付け替え道路ではない、という説明を繰り返しておりますが、はっきり申し上げて、市民からみれば、付け替え道路にしか見えません。

だからこそ、交通量がふえることを心配した市民から、歩道を拡幅して欲しいとか、一方通行であってほしいとの声が上がっているわけです。

市道2693を整備して、市道2197を廃止したら、今の私道より交通量が増えるのをさけることは不可能です。また、車道3m、歩道1mの曲がりくねった狭い道路、さらに一方通行になどしたら、多くの利用者が混乱し、市民も、また観光客も、さらには、この建設予定の芸術文化創造センターの利用者も不便をし、不満の声が出てくることは容易に予想できます。

今回の議論の中で、市側は、交通量の抑制が地権者のみなさんや地域のみなさんとのお約束だということを述べておられますが、なぜ、出来もしない約束をしたのか、理解に苦しみます。

あらためて、今回認定する市道2697は、と

ても危ない、その上不便なおかしな道路です。こんな道路をあらたに市が認定してはならないとおもいます。そして、なぜ、こんなおかしな道路を認定するのかと言えば、全ては、市民の日常生活の安全を確保することよりも、すでにかかなりの時間と労力をかけて進めてしまった芸術文化創造センターの設計が優先されているからです。

道路については、基本構想からお示ししている、と市側は説明していますが、ではなぜ、基本構想ができた時点で今回の道路に関する提案をしなかったのでしょうか？

敷地が確定してから設計に入るべきだというのは、これまで議会でなんども議論があったことです。道路が廃止できず大幅な設計変更を余儀無くされたり、計画が延期し国からの補助金が下りなかったりしたら、それは市が手順を間違えた結果のことです。

設計を一からやり直すことになったおしても、また芸術文化創造センターが建たなくなったとしても市民に混乱をもたらす危険な道路を認めるわけにはいきません。

以上、意見をのべ反対討論といたします。

国道1号線

